

みのかも定住自立圏公共交通基本構想【概要版】

構想策定の趣旨

- みのかも定住自立圏では、加速する少子高齢化に伴い、車以外でも誰もが便利に移動できる公共交通を整備・充実し、いつまでも暮らし続けられるまちを維持していくため、公共交通の維持と変化するニーズへの対応が求められています。また、圏域内から中心市等の医療、教育、商業、観光、公共等の施設への移動ニーズも高く、圏域内を結ぶ鉄道の有効活用や各連携市町村が運行するバス等の連携により、広域的に便利に移動できる公共交通ネットワークを形成することが求められています。
- これらに対応した地域交通政策を推進するため、連携各市町村間の連携方針となる基本構想を策定します。

構想の区域と期間

- 構想の区域は、みのかも定住自立圏を構成する1市6町1村（美濃加茂市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村）とします。
- 構想の期間は、5年間（令和8年度～令和12年度）とします。

地域公共交通の課題整理

- 現状分析、各種調査結果に基づく地域における移動や交通に関する課題と今後の方向性は、次のとおりです。

	現状	課題・今後の方向性
広域移動	●通勤・通学・通院・買い物などの日常生活において、圏域の中心都市である美濃加茂市への移動が多い一方で、圏域外への移動も一定数みられ、 生活圏は比較的広範囲 にわたっています。	● 広域移動手段を確保 するため、圏域内の市町村が連携し、 複数の幹線交通をつなぐネットワークを構築 し、美濃加茂市等の 移動ニーズの大きい地域へのアクセス向上 を図る必要があります。
送迎	● 自動車を利用 した移動が多く、送迎を行う人も増えています。それに伴い、 送迎や運転 そのものに 負担 を感じる人も増加しています。	●少しでも運転の負担の軽減や、 送迎の解消・送迎距離の短縮 が図れるようにするため、必要な公共交通を確保していく必要があります。
意識	●通勤・通学・通院・買い物時や、自動車を運転できない人にとって、公共交通は 重要な交通手段 と認識されている人が多くなっています。	●日常生活での移動手段を確保するため、 今後も圏域内の公共交通を維持 していく必要があります。
通学手段	●今後、 通学需要の減少が見込まれる中、高校選択時に公共交通で通学できることが 望まれています。 ●鉄道やバスでの通学で不便な点として、「 高校までの時間がかかる 」、「 運賃が高い 」といった意見がみられています。	●通学用の公共交通の確保は 将来の人口流出抑制 につながることから、圏域内外の学校に通う 高校生等の通学手段を確保 する必要があります。 ● 通学ニーズに応じた公共交通サービス となるよう、改善を図る必要があります。
持続可能性	●バス事業者やタクシー事業者の 運転手不足と高齢化が深刻化 しており、公共交通の存続が困難になりつつあります。 ●物価高騰や人件費高騰に伴い、同じサービスを提供する場合でも 運行経費が増加 しており、鉄道、バス、タクシー等の公共交通の存続が困難になりつつあります。	●交通事業者と各市町村が連携し、 運転手の確保と雇用環境改善 を進める必要があります。 ●関係者が連携し、地域住民や観光客の移動に必要なサービスを提供しつつ、 効率的な運行 を図る必要があります。

計画の基本的な考え方

- みのかも定住自立圏第4次共生ビジョンでは、「住み続けたい、住んでみたいまち」と思える圏域をめざしています。この将来像を踏まえ、本構想の基本理念と4つの目標を設定しました。

基本理念

「住み続けたいまち、住んでみたいまち」の実現 ～地域が連携した公共交通ネットワークの構築～

【目標1】 地域連携・乗り継ぎによる利便性の高い広域公共交通網の構築

- 広域連携路線の整備や市町村境付近での相互乗り入れ等、圏域内の市町村が連携することで、需要の高い地域間の移動に必要な公共交通手段を確保し、利便性向上を図ります。また、学習や交流が可能な滞在型の交通拠点の整備について検討していきます。
- さまざまな地域へ移動できるようにするため、各路線を交通拠点で接続させた公共交通網を構築します。

【目標2】 高校生や高齢者等の日常生活の移動に 利用しやすい生活交通の確保

- 高校生や高齢者等の日常生活における移動の利便性向上のため、通学・買い物・通院などの生活交通を確保します。これにより、家族の送迎負担を軽減し、人口流出の抑制を図るとともに、高齢者の交流や趣味といった社会参加を支える移動環境の確保を目指します。

【目標3】 情報提供の連携・強化による利便性向上・観光周遊の促進

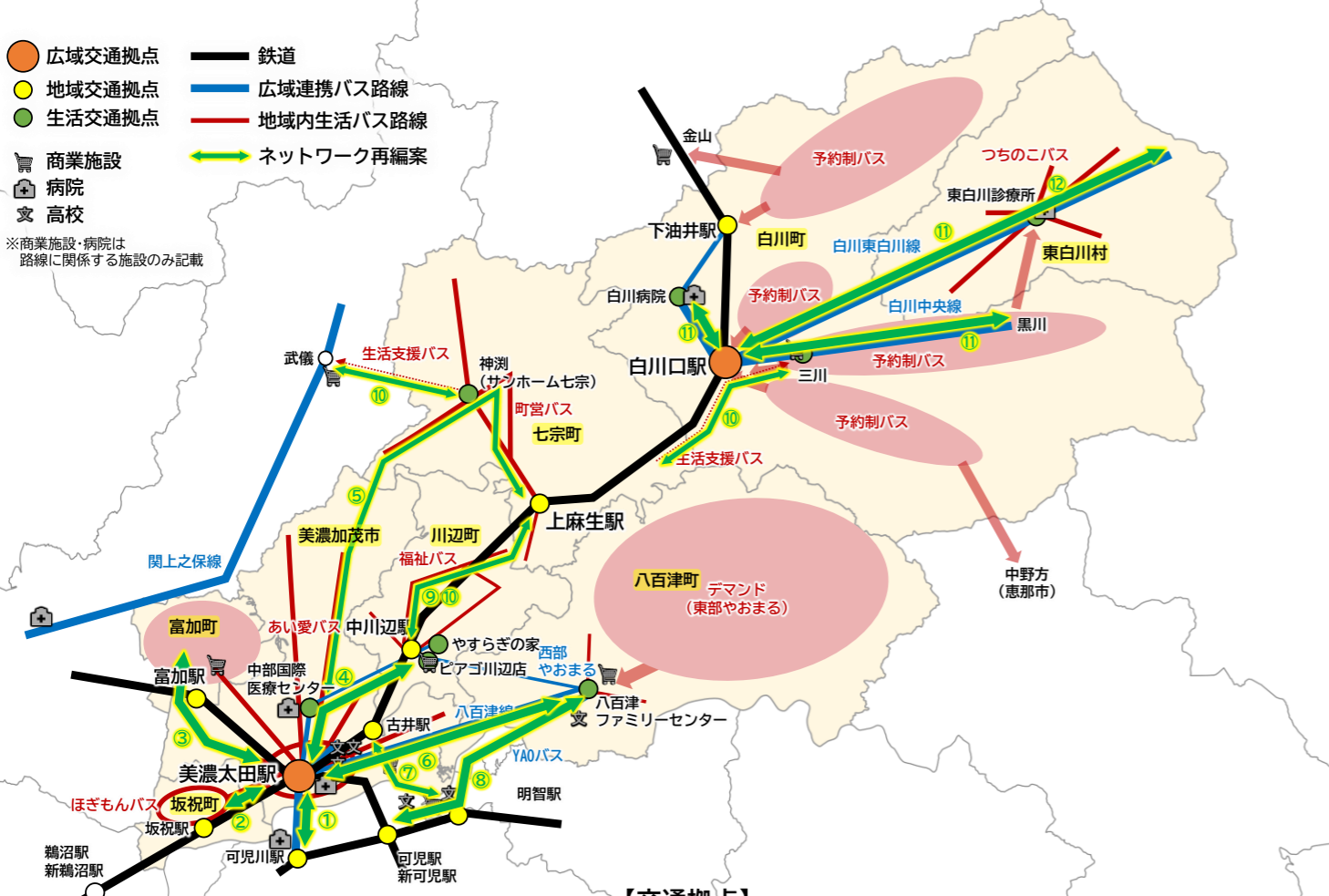
- 観光周遊モデルコースを設定する等、観光客向けの公共交通の情報提供を行い、利用時の利便性向上を図るとともに新規需要の獲得をめざします。

【目標4】 持続可能な地域公共交通の確保

- 複数の市町村が連携した共同運行等により、効率性と利便性を両立させた持続可能な地域公共交通の確保を図ります。
- 地域全体で公共交通の運転手を確保・育成できる体制を整備し、運転手不足の解消を図ります。

めざす地域公共交通の将来像

- 広域交通拠点
 - 地域交通拠点
 - 生活交通拠点
 - 商業施設
 - 病院
 - 高校
- ※商業施設・病院は路線に係る施設のみ記載



【交通拠点】

種別	役割	拠点場所
広域交通拠点	鉄道、広域連携バス路線をはじめ、地域内交通などが結節する拠点	・美濃太田駅（美濃加茂市） ・白川口駅（白川町）
地域交通拠点	鉄道と地域内交通が結節する拠点	・古井駅（美濃加茂市） ・中川辺駅（川辺町） ・下油井駅（白川町）
生活交通拠点	主要施設（病院、商業施設）があり、日常生活でのアクセスが必要で、他路線との結節する拠点	・中部国際医療センター（美濃加茂市） ・ぎふ清流里山公園（美濃加茂市） ・八百津ファミリーセンター（八百津町） ・三川（マツオカ白川店・ゲンキヤ加茂白川店）（白川町） ・白川病院（白川町） ・やすらぎの家（川辺町） ・ピアゴ川辺店（川辺町）

ネットワーク再編案

対象地域	再編内容
①美濃加茂市～可児川駅方面	美濃加茂市あい愛バスの可児市内乗り入れの継続
②美濃加茂市～坂祝町	美濃加茂市あい愛バスと坂祝町ほぎもんバスの接続連携
③美濃加茂市～富加町	美濃加茂市あい愛バスの富加町内乗り入れの継続・拡充
④川辺町福祉バス（美濃加茂コース）	七宗町・八百津町からの路線との接続・連携の検討
⑤美濃加茂市～七宗町	美濃加茂市あい愛バスと七宗町町営バスの接続強化
⑥東鉄バス八百津線	路線維持に向けた美濃加茂市・八百津町が連携した自主運行バス化
⑦JR高山本線から可児・御嵩方面の通学手段	古井駅～可児工業高校・東濃実業高校方面へのアクセス手段の検討
⑧八百津町～可児市方面	YA0バスの利便性向上（運行区間等の見直し）
⑨川辺町～七宗町方面	下麻生大牧～大貝戸での接続・連携（共同運行）の検討
⑩七宗町～武儀・白川方面	町外の商業施設等へのアクセスの確保
⑪白川町・東白川村～美濃加茂市方面	濃飛バス白川中央線・白川東白川線・予約制バスとJR高山本線との接続の維持
⑫白川町～東白川村	濃飛バス白川東白川線とつちのこバスの連携

目標達成のために行う施策

- 基本理念と4つの目標、将来の公共交通ネットワークイメージ実現に向け、以下の施策に取り組みます。

目標	実施施策
【目標1】 地域連携・乗り継ぎによる 利便性の高い広域公共交通網の構築	1-1 鉄道や広域連携バス等の維持・整備 1-2 交通拠点での接続を設定した公共交通網の整備 1-3 市町村境付近での相互乗り入れ 1-4 キャッシュレス決済への対応の促進
【目標2】 高校生や高齢者等の日常生活の移動に 利用しやすい生活交通の確保	2-1 コミュニティバス・デマンド型交通の路線再編 2-2 定路線バスや福祉輸送の連携
【目標3】 情報提供の連携・強化による 利便性向上・観光周遊の促進	3-1 公共交通を利用した観光モデルコースの作成 3-2 GTFSデータを活用した公共交通情報の充実
【目標4】 持続可能な地域公共交通の確保	4-1 共同運行、貨客混載による効率化の検討 4-2 運転手確保に向けた取り組み

目標達成のために行う施策

- 施策の実施による効果を計測するため、下記の評価指標を設定します

対応する目標	評価指標	現況値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
目標1	指標1 連携市町村年間バス利用者数	(R6)307,458人	320,000人以上
	指標2 複数市町村が連携した路線・ダイヤ見直しの実施件数	—	1件以上/年
目標2	指標3 各地区から公共交通で60分以内に行ける高校・商業施設・医療施設の増加数 ※「行ける・行けない表」での「○」の増加数	—	10箇所以上/5年
目標3	指標4 観光モデルコースの作成数	0コース	10コース以上/5年
目標4	指標5 共同運行・貨客混載・運転手募集に係る説明会等の実施件数	0件	1件/年以上

評価の方法

- 下記のスケジュールに基づき、施策の実施状況および評価指標の達成状況を確認します。
- その結果を基に、施策の効果検証、路線ごとの課題・改善策の検討を行い、次年度以降の事業実施方針を決定します。

